

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

おはようございます。9月も半ばになりますと朝晩大変涼しくなりまして、大変過ごしやすい季節になったわけでございます。しかしながら、ことしの梅雨は大変な長雨や豪雨で、災害に遭われた皆さん方に対しまして心からお見舞いを申し上げるところでございます。大変でございました。また、消防団員の皆さん方初め、救済に当たっていただきました方々にも、心からこの場をかりましてお礼を申し上げたいと思います。

私は、これからも市民の皆さん方が安全で、そして安心して暮らせるような武雄づくりのため一生懸命頑張りたいと思いますので、どうか市民の皆さん方の御指導、御鞭撻のほどをこれからもよろしくお願い申し上げまして、一般質問に入りたいと思います。

真夏の決戦と言われました今回の衆議院総選挙は、予想どおり自民党の大敗になったところであります。この原因はいろいろあるかと思いますが、私は、ただ単に、我々庶民を切り捨てた、我々の立場に立った政治をしなかったからだと思っております。

政治というのは、常にお年寄りや子どもたち、そして社会的弱者と言われる人たちを守らなければならないと思っておりますし、さらに、日の差さないところに日が差すようにしてやる、これが政治だと私は常々思っているところでございます。しかし、小泉政権下におきましては、これとは全く逆に、強い者に味方する、強い者をより強くするということで、さらにこの格差社会を広げたのであります。

皆さん方も覚えておられると思っておりますけれども、あの4年前、武部幹事長が堀江貴文、ホリエモンの手を握って大きく掲げて、「これは私の息子です。自慢の息子です。日本の宝です」、こう言っていたのを私は憎々しい思いで見っていたわけでありまして。そう思って見ていたのは、決して私一人ではないと思っているところでありまして。

お金というのは、額に汗をして働いて、その汗の代償だと私は思っております。お金は労働の対価でなければならないと思っております。舌先三寸とまでは言いませんけれども、人を巧妙にいろんなこと使って、若い彼たちが何十億円、何百億円集めるのを、私は武部幹事長と違って決して偉いとは思いません。私はむしろ、こういうものには歯どめをかけるべきだと思っております。政治とは、常に、こつこつ働く、まじめな人たちがばかを見ない政治でなければならないと思っているところでありまして。国民の目線に立つことができなかつた、これが敗北の原因だと思っております。

具体的に申し上げますと、後期高齢者医療制度、これは75歳以上の人を別建て保険にするというものであります。75歳といいますと、今、戦後65年でございますので、敗戦のときは10歳前後であります。敗戦の物のないときに、子どもたちは文字通り食うや食わずで大きくなられたと思っておりますし、大人になってからは日本の復興のために働いて働いて働いて、今のこの日本を築いていただいた方たちだと思っております。この日本の繁栄を築いていただいた方たちだと思っております。75歳になって、やっとこれで自慢して子どもたちにこの日本を

渡すことができる。さらには、子どもたちや孫の子守ができるようになる。好きな趣味にも、これから没頭できるようになる。しかし、若いころは一度も病院に行ったことないけれども、年とってきて腰や足、あるいは手が痛くなる、慢性の持病が出てくるなどなどで、今からは病院にも行かんばいかんごとになったね、こう言っているお年寄りを、あなたたちは医療費がかかるから別建て保険にする。これでは、どんなに我慢強いお年寄りであっても怒るのは、私は当然のことだと思っております。

そこで、私は、武雄市議会に、こういうお年寄り制度はやめよう、政府に物を言おうということで、後期高齢者医療制度の廃止を求める請願を出しましたけれども、残念ながら不採択となったところであります。

また、障害者自立支援法、これは御承知のとおり、自立支援とは心ばかりで、口ばかりで、本当は身体障がい者の皆さん方をいじめるような政策であります。

さらには、生活保護の母子加算金の廃止。今、どういう時代かといいますと、母子加算だけではなく、お父さんと子ども、そういう困っていることに対して父子加算を導入しよう、そういう動きの中で母子加算金をばっさり切る。あるいはまた、子どもたちは日本の宝だ、将来を担う宝だと言いながらも、子育てには余り熱心でなかったような気がするわけでございます。自治体で何かしようとするれば、必ずペナルティーという言葉をかけてくるのであります。

また、どうしても触れておかなければならないのは、診療報酬の引き下げでございます。さらには、皆さん方御承知のとおり、今回は凍結こそなりましたけれども、終末医療制度の改悪、こういうことをしてきたわけであります。

繰り返しますけれども、私は、常に政治は、あるいは行政は、お年寄りや子どもたち、そして弱者の味方でなければならぬし、先ほど言いましたように、日の差さないところに日が差すようにしてやる、こうなければならないと思っております。

市長は、昨日も一昨日も「市民生活第一」という言葉を言われております。私は全くそのとおりだと思っております。「市民生活第一」、このことだと思っております。

今回のことをぜひとも、「人のふり見て我がふり直せ」の言葉もあります。我々議員が考えるところです。ぜひとも他山の石となることを期待いたします。そしてまた、市長におかれましては、これから先、きのうもその前も言われました。「市民生活第一」、これを自分の心に刻んで、これからも頑張ってくださいようエールを送るところであります。

私は、8月18日は、実は大牟田のほうに行っておりました。大牟田は第7選挙区であります。古賀誠候補が危ないということを聞きましたので、出陣式に朝早くから駆けつけていて励ましてきました。それまでは柳川のほうを中心として古賀誠候補の後援会活動に、微力でございますけれども、一生懸命頑張ってきたところであります。

古賀誠代議士は、ここでも何回か紹介いたしましたけれども、国道34号線のバイパスに6

億円の予算をつけていただいた方であります。国道34号線は北方の生命線であります。昭和63年に政府は買い上げはしたものの、二十数年間、何ら工事をしてもらえなかったわけであります。そこで、1月12日、忘れもしません。古賀誠代議士と会って事情を話しましたところ、「それはいかんね。地元は困っとおやろう。わかりました」、この3つの言葉で、本当に初めてその力強さを感じたところであります。そして、先ほどの6億円をつけてはいただきましたけれども、今、民主党は207兆円の予算を全面的に組み替えると言っております。これでは、この6億円、どうなるかと大変な心配をしているところであります。

また、民主党は高速道路の無料化をうたっております。確かに、快適に走っている今の状態で無料化になれば、それは最適なことだと思いますけれども、高速道路の無料化ということは、高速道路の一般国道化であります。国道になるのと一緒であります。そうなれば北方武雄インターはどのようになるかといいますと、ただでさえ込んでいる国道34号線に新たな交差点ができることになるわけであります。そういうことになりますと、この国道34号線のバイパス、大きな北方の生命線を握ることになるわけであります。

そこで、市長にお伺いいたしますけれども、この国道34号線の生命線を、間もなく誕生するであろう民主党政権の中でどのようなかじをとっていただくのか、まず最初の質問といたします。よろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

2つあると思います。1つは、民主党政権に変わっても、先ほど黒岩議員がおっしゃられた国道34号線バイパスの必要性を、政党とかかわりなくきちんと言っていくこと。したがって、ここでも大事なのは社民党さんの果たす役割であります。本当にこれをつなぐ、民主党政権とつなぐ役割として果たされる役割は大だというふうに思っております。

それと、もう1点であります。国の政治に翻弄されないような市独自の取り組みが必要だということを今考えておるところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

実は議事の進め方を一口いいでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

はい。

○29番（黒岩幸生君）（続）

実はですね……

○議長（杉原豊喜君）

黒岩議員、そしたら、そこは時間入りますので、議事進行席でお願いします。

〔29番「いいですよ」〕

○29番（黒岩幸生君）

実は、6月定例議会のことなんですけれども、非常に一般質問のあり方に思ったんですけれども、私は道路特定財源について、そのことをずっと質問してきたんです。趣旨は、3月定例議会からずっと言っていましたけれども、北方と武雄の比較を言っていたんです。つまり、道路維持管理費が武雄は伸びているのに、北方は伸びないという話を3月議会でした。6月議会は、その証拠を持って、ここにやってきたんですよ。写真も出しました。そのときは名前も言っておりません。その比較を言って、ある議員の奥さんのところの実家の前の、そこだけ全面舗装してあったんです。実は、きのうも松尾初秋議員がそのことを質問されていました。だから、それを見比べて、いいですか。私は執行部に対して、これは議員案件でないのかと聞いたんです。執行部は、たとえ議員案件であっても、議員案件でないと答えると思うんです。ここ、大事なところですよ。議員案件でないならば、なぜこうなるのかという追及なんです。私が。しかし、そのとき議事進行が出て話されたので、私はそのやりとりしたんです。

ただ、私の一番大きな誤算、相手の言葉はテレビに入っていないんです。私の言葉だけなんです。ここにおる人はみんなわかる。しかし、一般の人はわからないんですよ。何という電話がかかってきたかといいますと、「黒岩さん何ば言いよったとね」、こうですよ。そうなるんですよ。だから、私はきのうも言いましたけど、ここだけの議会のことなんですけれども、もちろんテレビの向こう側にもちゃんと市民の皆さん聞いていますよと、もう少し襟を正しましょうと言いましたね。

それと、質問通告内容のことなんですけれども、6月議会で実は江原議員が、浦議員が質問しているとき、ここから恫喝するようなことを言われたんです。質問の範囲じゃないじゃないかと、質問通告の範囲を超えておると言われた。そのときは浦議員は質問の範囲内ですよと言われたんです。そのことがきのうの状態ですよ。きのうは自分は通告していないので言われんわけでしょう。

だから、議長にお願いは、私はリアルに言いますので、大いに、途中、議事進行かけてもろうて結構ですよ。だから、2つに1つですね。もし議長が許可をされれば、させると言うてください。もし許可をしないなら、まずとめて、言うこと聞かない人は出してください。そのどっちをとられるか、まず最初に聞いておかなければ、私も今度も具体的な質問をします。そのところをどっちにするということを聞かなければ質問ができませんので、ぜひともよろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

一般質問の途中での議事進行というのは控えていただきたいということを議員の皆さんにお願いしてきていたところでございます。と申しますのは、「議員必携」の中にも、質問の途中では受け付けるべきではないということを記しておりますけれども、今までの武雄市議会、また、この合併してからの武雄市議会の中にあっても、議事進行については皆さん方から随時出されているところでございます。これを私が拒否することができるか、できないかもあると思いますけれども、必要に応じては、質問が終わった時点で議事進行は受け付けさせていただきますと思っております。

〔29番「議長」〕

一般質問に入りますか。

〔29番「入りますよ」〕

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

つまり、終わった時点で言えるということですね。

○議長（杉原豊喜君）

はい。

○29番（黒岩幸生君）（続）

人の質問中は必ず言わせないということですね。

○議長（杉原豊喜君）

はい。

○29番（黒岩幸生君）（続）

はい、わかりました。

では、ここで気を取り戻して質問してまいりたいと思いますけれども、まず最初は、分庁方式を出したのはですね、本庁方式ですよ。しかし、北方、山内がそれぞれ大きくならないうけないということが6月の質問でございましたので、重ねてきょうは言うつもりだったんですよ。つまり、北方は、まちづくり部が来ることによって70名になるんですね。山内は今の状態だったら、教育委員会、いろいろ考えておりましたけれども、それ以前に、きのうの質問を聞いていてびっくりしたんですけれども、山内は内紛しよるんであれば、この質問は取り消したいと、後に譲りたいと思います。

そこで、ただいま市長の答弁ですけれども、私はいつも思うんですけれども、大きな選挙をしてきますね。しかし、結局、我々市会議員段階では、自民党が勝ったからとか、民主党が勝ったから、それで終わりじゃないんですよ。終わりでない。何でか。その中で我々は武雄市民の命と暮らしをどう守るか、こうなっていくと思うんですね。しかし、どうしても政権、恐らくもう16日ですかね、誕生はですね。そういうことになりますと、民主党が言っ

ていることをある程度見ておかなければならないと思いますね。

一番今、民主党が言っていることは、道路の無駄を省く。無駄な道路はないとですよ。だから、程度ものだと思うんですね。1つでも私は日本に無駄な道路はないと思います。だから、程度ものだと思うんですね。これが怖いんですよ。けさ、ダム問題でもめていましたね。見られたと思いますけど。だから、総論賛成、各論反対あるんですよ。だから、私が怖いのは、国道34号線の6億円がどうなるか、非常に心配しているんですね。

しかし、今、民主党は、政権交代マニフェスト、これ皆さん見られたと思いますけど、もらったと思いますね。これは非常にやっぱりいいこと書いてありますよ。すばらしいなと思うんですね。例えば、子ども手当、出産支援でしょう、公立高校の実質無償化、年金制度改革、医療介護の再生、農業の個別所得補償、暫定税率の廃止、これは武雄市議会でも出しましたけど。これ意味はですね、暫定でいつまでも来るのはおかしいやろうと。要るなら本予算でせろ。暫定が何十年も続くのおかしいということで出しましたけど、それは皆さん一致して出していただきました。全国でも画期的なことかわかりませんが、当時は。しかし、それをうたってあります。それから、高速道路の無料化ですね。先ほど言ったところですね。

この中で、子ども手当、公立高校、医療介護ですね、こういうのは直ちに金が要るんですね。しかし、公約ですので、必ず守りますね。守るために努力してくることが道路特定財源の切り込みだと私は思うんですよ。道路が一番言いやすかけん。なぜか、よその道路をだれも加勢せんけんですね。総論賛成、各論は弱いんですよ。だから、ここが責められると思うんですね。

それで、古賀誠事務所のある人、事務所の近くの人といいますかね、それから、民主党の人に聞きました。私もパイプがありますからね。そしたら、こう言われた。今度の選挙は、見るところを変えれば財務省と国交省の戦いでもんねと言われたです。最初どうかなと思ったけど、最近は何かそういう気がするようになったんですね。財務省と国交省の戦いだと、道路特定財源の戦いだという言い方をされた。だから、財務省には非常に民主党が近かったですね、最近。国交省は呼ばんとでしょう。だから、当たっているなあとと思うとがあるんですけども、この政権が続くかどうか。よその政権わからんですけどね。しかし、ある程度見ておかんとできんです。

直らにつぶれるものか、ある程度いくものか、見ながら市の運営をしていかなければ大変なことになりますので、私は先に言います。こう思うんですよ。しばらく続くと。なぜならば、民主党は政権をとるため一生懸命練習をしてきたんですね。もちろん、自民党は野党になった練習はしていなかったですけどね。それは当たり前のことですけども、今、テレビを見ていて、議論になっておらんとですよ。それはもうすぐ自民党の皆さん方、私はどこも入っておらんけんですけどね。自民党の皆さん方、すぐに立ち直ると思いますけれども、今

聞いたら、あの状態を見たら、とてもじゃないけど、まだ国民はついてこない。それでしばらく続くと思いますが、市長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

参議院の構成がポイントだと思います。参議院の構成いかんでは、これは長く続くと思いますし、来年の参議院選挙で、これ民主党が、今でも過半数割れていますけれども、大幅に割るようであれば、それは長くは続かないということになると思いますので、繰り返しになって恐縮ですが、私は細川政権よりは長く続くと思います。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

えらく私より具体的に言うじゃなかですか。まあ、いいですけども、それによって北方町の将来をどうはめていくかということになるんですね、私としては。だから、地方分権は、やはり進むと思うんですね。これは間違いないと思うんですね。地方分権が進むということは、裏を返せば、知事さんの力が強くなると思うんですね。そして、国交省の力は弱くなると思います。これは相一致するところだと思いますけど、そう思うんですね。

それからもう1つ、原口代議士おられますね。原口総務大臣のごたあですね。大串代議士は財務省出身なんですね。金融庁ですかね。それで、財務省出身といえば、先ほど言いましたように、今度中枢に入っていくんですね。国家戦略局と言うたですかね、何て言うたですかね。そういうところがあったんですね。その重鎮になるという話も聞き及んでおります。

そういうことを考えれば、北方町、34号線の道路、どうシフトを変えていくかということもありますので、ぜひとも私はここは、笑われるかもわかりませんが、都市計画を今まで上からじゃなくて、本当に下からの分権した都市計画を進められたと思います。それは、都市計画の利点として、潜在する建物を規制するんですね。それはやっぱりきれいにするため、ある程度の規制はあるでしょう。そして、環境の保全をそれによって図ることができる。次ですよ。道路、区画整理、公園等の都市計画事業が導入できるんですね。そして、市街化が進んでくる。地方交付税に都市計画費が算入されるということがあります。

そういうことで、ここは思い切って、今までのお仕着せの都市計画でなくて、地方分権型の都市計画をぜひ導入すべきだと思いますけれども、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

自立型の地方主権型の道路行政、都市計画行政を進めるためには、先ほど議員の御指摘の

ような地方分権型、地方主権型の都市計画決定が必要だと、私自身もそのように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

民主党は直轄国道を見直すというわけでしょう。地方にやるんだと、地方でできることは地方でと言っているんですね。やっぱり、それに従っていけば、国道についても、うちからできるという考えをしたんですね。都市計画課かどこかで笑われました。そがん夢んごたあことのでくんもんかて。しかし、私はひょっとすればこれからできると、国で何でんかんでんせんごとなると、先取りの、ぜひとも都市計画ができると思うんですね。

皆さん、資料1です。（パネルを示す）これは北方町の全図ですね。武雄市東玄関入り口の北方です。北方、あれっと思って聞こゆっぎいかんけんですね。武雄市の東玄関口の北方町の状態ですね。武雄市まではバイパスができてきております。その先が6億円つけていただいたという道路途中までですね。これはバイパス用地なんですよ。それから先が、これを都市計画したらどうかという考えですね。ずうっと持ってきまして国道、ここちょうどリムスの近くになりますけれども、ここから出して、これからまず北方町の範囲でも焼米橋のところまで非常に狭うございますので、そこまで道路をつくっていくという考えですよ。そこ、図面あるでしょう。いいですか。

この駅前周辺は今まで長年できなかったことですがけれども、実は1月12日、古賀誠代議士に会ったとき話をしたら、ここもやっていこうという話はしてもらっていたんですよ。これは稲富県議と一緒に話しましたけどね。ああ、そういうところであれば一緒にやっていいじゃないかということで大変喜んでいたんですけども、政変がありますので、ここが今問題のところですね。34号線バイパスをつくらなければ、この国道34号線にみんな入ってくるんですね。

それともう1つ、今、どういうとですかね、高野の平たん部、役場の横ですよ、役場の西のところ。井手ちゃんぼん屋さんとか食うところがあるですね。その前付近を市街化に持ってくるね。ただ、ここは低平地ですので、市街化にするのは非常に難しいですね。水路が3本入っていますから、水路の整備もせにゃいかん。道路も入れていく。そうすることによって、ここを市街化区域に持ってくるんですね。もちろん、498号線、これですけども、問題になっているところも、これによって解決しますね。バイパスが解決する、道路が解決するんですね。一番問題になるのは、今、買収されているバイパス用地ですね。34号線のつながりのところですね。

もし、地方分権で知事が強ければ、知事の力でこれできると思うんですね。もし、国交省が強かったら古賀誠さんの力でできると思うんですよ。いずれも、うちはできると思うんで

すね、こういう考え方からしていけば。だから、1党に肩入れしていかにかいかなと思うとは、ここですね。そういうまちづくりをできると思うんですね。そしたら、大町に対しては、江北までできておりますので、途中ですからね、それは道路は推進すると思うんですね。

ここは改めて地図を見てください。これが北方の動脈ですね。これをつくれば、できれば、高速道路は無料ですよ。北方は天国ですよ、武雄ね。すぐ行けますから。もし、これができなければ、武雄バイパスから来て、旧道から来て、上からバイパスがおりてきておるですね。ここで3路線が乗っておるですよ。これに伊万里から来たと、4路線でしょう。ここで5路線、5つの路線がこれだけに乗ってくるわけですよ。たった1つの路線に5カ所からですね。そういう北方の縮図ですね。何が何でもつくらなきゃいけない。

市長がこれをつくっていただければ北方町は天国、つくらなければ地獄で、政治の疲弊感を物すごく言いますね。政治の貧困差を言われます。市長、あなたはいつも言うように、まさに前進か後退かですよ。つくって北方を前進させるのか。結局、国交省、あるいは民主党、いろんなはざまできなければ北方は地獄です。北方だけじゃないですね。武雄からも交通渋滞を起こす。そういう要衝を抱えておりますので、ぜひとも若さと行動力で、昔は使っていましたけど、最近使えんですけど、若さがなくなってですね。ぜひとも若さと行動力で、この難局をはね返すという言葉が欲しゅうございますけれども、答弁を求めます。

すみません。次の写真を見ておってください。先ほど言いました駅前前の狭い状況ですね。2番目の地図です。これは歩道も何もないところですね。車ばとめられんけん、たまたま広かところにとめたですけれども、ちょうどこの人と会ったんですね。Fさんですけどね。何しよんねということで、こがん考えとる。ぜひしてください、だいでん言いよらすて、この国道広げてくいろと。これは北方町の昔からの宿題ですからね。しかし、合併したことによって、都市計画ができることでできるという考えを持っておりますので、ぜひとも色よい返事をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘の趣旨は共有しております。そういうことで、私はよかったなと思うのは、もともと私自身が官僚出身であります。その当時から大串さんとも、あるいは民主党の川崎さんとも非常に親しくさせていただいておりますので、北方のため、そして武雄のためにできることは、もう最大限していきたいというふうに思っております。特に、もうこれは恐らく政治的案件になるというふうに思います。非常にシンボルのところになると思いますので、もうそれは党派を超えてやっていく必要が私にはあるというふうに思っております。あらゆる手だてを講じて、政権与党のお力もかりながら頑張ったいと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

よろしくお願いいたしたいと思います。これからだと思えますからですね。

次に、中野と黒尾の道路整備ということで出しておりますけれども、これは特別、中野と黒尾に限らず、どこでもある話だと思っております。

と申しますのも、まず中野ですけれども、どこの地区でも道路が狭い場合は、生活道路として不便だから道路を広げようという話が出るんですね。広げる話が大体ついたころ、しかし、大型車が通るよねという話になるんですね。じゃ、バイパスつくらにゃいかんねとなるんですね。それでバイパスができてくる。しかし、その後に生活道路が広がらないという状態があるんですね。

今どういう状態かといいますと、ほとんどお年寄りがエコカーですかね、シニア電動カーですかね。私は、お年寄りエコカーと言うんですが、四輪ですね、あれで集会所まで行かれるんですよ。だから、集会所まであの車に乗っていけるような道づくりを、中野に限らず、やっぱり武雄市全体的に見直さにゃいかんと。集会所に集まって、公民館に集まって、例えば、オレオレ詐欺にかからないような話とか、いろんな話ができるんですね。これはだれか言いんさったですけど、こういうところが中核になっていくんですよ。そのためには、まず道路整備が必要なんですね。

これは手元何番やったですかね。（パネルを示す）中野の地図ですね。今、自動車学校から来た道が10.5メートル幅があるんですよ。そして、中野に入れば今5メートル未満ですので、これは藤田笹ノ尾線やったですかね、左のほうに藤田笹ノ尾線にバイパス的に動くようになったんですね。だから、車が苦勞しないので、この中野の話は消えるんですね。しかし、先ほど言いましたように、生活する上においては集会所までの拡幅はぜひお願いしたいと思うんですね。

それで、写真も撮ってまいりましたけれども、（パネルを示す）ここは淵上建設さんのところですよ。ここは少し広いもんですから、ここで離合駐車したりしよるんですね。しかし、その先を見てわかりますように、非常に狭いんですね。だから、最低5メートルはできないかと思うんですね。

それと、もちろん先は中野線、今度は、これ部長さんですね。越えて先の中野線ですね。ここは確かに今家が1軒かかりますね。家というか、まともじゃないですけども、あと宅地がありますけれども、宅地に家が建ってしまえば、後はなかなか動かせん。チャンスは今しかないですね。それで、そういう宅地を、もし地元が話ができれば拡幅してもらえるのか、それともできないのか、ぜひとも答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員おっしゃられた市道中野線ですね、県道から北側のほうですね。この集会所までのほうにつきましては、地元との協議が調べば、可能であれば事業化したいというふうに思っております。

〔29番「手前は」〕

手前につきましては、今現在が道路幅が一応5メートルあるわけですので、現道の幅員を利用したところでの整備をやっていくということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

全部5メートルないですよ。ないところもあります。それはそれで地元は協力すると言っていますからね。5メートルあるから真っすぐじゃないですよ。やっぱり地元の協力もあるんですよ。それはもちろんです。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

それから、黒尾の道路整備ですね。これは私が議員になってすぐ、何とかしてくれと言われてたところですけども、きのう話したように、やっぱり地元には2人の議員がいらっしゃいますので、それはもう地元の議員に話して、地元から上げてくれんかと言っておりました。しかし、私も任期は、もう後ありませんのでね、あと半年ぐらいかな、今しておかなければ、次という可能性はないんですからね、ぜひ話をしておきますけれども、これもどこでもあるような話ですよ。最初、この道を真っすぐしようねという話なんです。しかし、障がい物があったら、最初そこを撤去してでも真っすぐしたいという話ですね。部長さんがいいとかね。しかし、どうしても話がつかなかったら道を曲げるんですよ。しかし、曲げたからといって、この見通しはようならんとですね。しかし、行政は曲げて、そこで終わりですよ、通常。地元の方は、それでなれるもんですから、余り問題意識を持たんごと、だんだんっていく。しかし、なれない人から見たら非常に怖い。私が見ても、あそこは非常に危ないところですよ。

だから、いつも言われるのは、次に話が出てくるのがですよ、次に子どもがけがしたり、こういうことはいかんかわからんですけど、死んだりしたときに、またその話が出てくるんですよ。やっぱり、ここは見通しの悪かねと。それなら、私はいつも、みんなしょっちゅうその話しますけれども、けが人が出る前にするのが行政だと思うんですね。まして、死人が出る前にせにゃいかん。そう思うんですよ。

私の尊敬する人が、私にこう言ったことがあるんですよ。ある会社の社長の保証人をしておったとすると。そしたら、会社が倒れたら絶対、保証人は払わにゃいかんですね。会社が傾きかけたら、どがんして保証ば逃げるかなと、逃げられんですよ。そしたら、人間とい

うのは、倒れる前に保証金を払ってやれば会社は助かるかもしれん、こういう発想の持ち主です。もうすばらしいなと思ったですね。どうせ倒れたら保証金を払わにゃいかん。そうならば、倒れる前に払ったらどうかという話なんです。まさに、これですね。

場所は、（パネルを示す）ここは朝日第2保育所ですよ。朝日第2保育所のほうから繁昌に行く道ですよ。繁昌にずうっと行きよって、ちょうどこのカーブのところに家が1軒あるんですね。それがこの状態ですけれども、写真のほうですね。こっちが朝日第2保育所からずうっと来るんですよ。ここからちょうど出て、これが朝日第2保育所から出た道路です。こっちに来て繁昌に行くんですよ。これは「がばいばあちゃん」のピン子ちゃんが歩いたところですね。淀姫神社、そこに行く道なんですよ。だから、向こうから来たら、地元の人にはわかっておっても、私たちはわからん。三差路になっている。非常に危ない。もしスピードでも出してきたら、子どもがおったら、やっぱりとめきらん。ちょっと下り坂になっていますもんね。大変危ないところですよ。

だから、この家のところがもし話ができればですからね。ここからですけれども、先ほどの中野の場合はある程度地元で話せる問題なんですよ。ここは地元で話せるようなところじゃないんですね。家1軒ですから。こういうところには、通常言われる地元調整が調べばとよく言われますね。地元調整が調べばじゃなくて、事故が起これば、私は行政の責任だと思うんですよ。先ほど言いました保証人の話、けが人、もっと符の悪いことがある前に、ぜひとも手がけていただきたいと思いますけど、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員おっしゃるとおり、ここは確かにSカーブ、カーブが厳しいところで見通しが悪いところでございます。これはその当時、そこを整備する段階でのいろいろな問題があったところでございますので、今後、建設課のほうで直接地元に入って行って、そして調整がつくかどうか確認したいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この道路は、私が朝日第2保育所に通うときから非常に危ないということを言われていて、私が知る限りも幾つかやっぱり事故が起きているんですね。ですので、先ほど議員がおっしゃった地元調整ではなくして、地権者にもう直接やっぱり話をしたいというふうに思っております。それが市民の安全・安心を守るための本当の1つの大きなステップになるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

それをお願いしようと思っておったんですね。やはり最高トップが行くことによって、また変わるんですよ、どうしても。だから、その雪解けをぜひですね、いろんなことあると思いますよね、それなりの理由が。しかし、相手に強くじゃなくて、やっぱり「北風と太陽」と思いますので、ぜひとも雪解けをして、あの道をつくっていただきたいと思います。

それでは、次は北方小学校の安全・安心についてでございます。

これも同じ考えでございますけれども、実は北方小学校の体育館の話でございますが、議長、私が訴えたいのは、体育館というのは中はがらんどうですよ、議長ね。議会としてわかっていただきたいですからですね。周りに支柱を立てて天井を張っておるんですよ。これが体育館の特性ですね。

これが体育館の正面図ですね。（パネルを示す）まず正面図を見てください。ここに柱が3本ずつずっと立っていますよね。正面はこういう形なんですよ。しかし、この柱は小さいですよ。しかし、小さくても、ここに筋交いが入っていて強力につくってあるんですね。だから、鉄というのは横に弱いんですね。しかし、引っ張りは強いんですね。つまり、鉛筆の芯ぐらいだったら簡単に曲がるけど、引っ張ったら切れないですね。それを利用してつくってあるんですね。

それが今どういう状態かといいますと、次のページをお願いします。ペンキがめくれているように見えますね、横棒が。これは決して、めくれているだけじゃなくて、結構なさびなんですよ。はがして見なければわかりませんが、中も同じ状態だと思うんですね。大変薄くなっている。

さらに、これが今めくれている状態ですね。（パネルを示す）少しアップしました。このところ、筋交いのところが外れていますね。下も半分腐れていますよ。これです。だから、この引っ張りがなければ、これは横に弱いんですね。そういう状態ですね。

さらに、これは西側と東側の支柱は少し大きいやつで8本立っています。そこに筋交いが入っておるんですね。だから、筋交いは16ありますよ。その筋交いの下の部分、見てわかるでしょう。腐って外れています。ここだけ特別腐ったなら別ですよ。これを数えてみました。4カ所、半分壊れておるとが2カ所、16のうちですよ。この体育館もてると思いますか。

それで、現場を見て大変なことだということで、教育委員会に電話しましたね。応急処置でもしてくれという話をしました。風が吹いたらひとたまりもない。地震だったら、もっとひとたまりもない。そういうときに、子どもが下で遊んでいたらどうなるか。こういうのは火を見るより明らかじゃないですか。26年、27年に大改修工事ですか、大規模改修です予定だという話をほかのところから聞きましたけれども、これはそれまでもてるんですか。きのう監査委員をされている富永さんに聞きましたけど、あれは危なかもんねと指摘ばしとっ

ちゃあですよ。もし天井が落ちてきたらどうするんですか。現場行かれたんですか。26年、27年まで大丈夫と思った根拠を教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

お答えいたします。

平成18年12月から19年3月にかけて、耐震の調査をこの体育館させていただいています。そのとき、国の基準で出しますI S値というのが0.66であったわけでありまして。御存じのように、耐震診断の結果で0.66ということで、地震に対しては0.66の強さがあると。補強を行えば十分な耐震性が確保されるというふうに判断をしているところであります。

ただ、議員がおっしゃるように、風とか雨、こういうものについては、腐食等も見られますので、こういうものについては早急に改修及び修繕というものをしていかなければならないというふうに考えているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

優等生答弁は要らないんですよ。どうするかでしょう。先ほど言いましたように、見てください。根も腐っているんですよ。いつ天井が落ちるかわからん状態じゃないですか。その耐震でもわかりませんよ。じゃ、これは26年までもてるということですか。責任とるんですか。

だから、私は補強でけんかと聞いた。このままじゃ危ないだろうと。それはできません、26年、27年にちゃんとしますと。それまでの話なんですよ、私が言っているのは。危険ですから、今から体育館で子どもは遊ばせられませんよ。

知ったふりするつもりじゃないですけど、海温が1度上がれば、風は10メートルから15メートル大きくなるんですね。大きくなるんですよ。台風は水温が27度以上だったら大きくなるし、27度以下になったら小さくなるんですよ。1度上がったら10メートル加算するんですよ。今、地球温暖化じゃないですか。だから、そういう中でね、こういうことこそ、さっさとすべきじゃないですか。市長、どう思いますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘のとおりだと思います。ですので、26年までの補強でできるのか、それとも前倒しできちゃんと安全を確保するのか、よく教育委員会と協議をします。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

1時間半という、わずかな時間でございますので、これでやめますけれども、ぜひ教育長、現場に行って、子どもの気持ちになって、ぜひともしていただきたい。部長がいいですかね。怖いですよ、ほんなごて。ぜひお願いしたいと思います。

それから、競輪場の話ですけれども、武雄競輪場ですね、これをどうするかという話で、市民病院問題から非常に競輪場がどうなるだろうかということで従業員の方は心配されているんですね。従業員が173名おられます。それから、いろいろ関連で合計266名の方が本当に心配されている。この中には、だれか故意にですよ、赤字やけん、のうなるてばいというのがありよおとですよ。だから、これはぜひトップの市長が、あなたが10年後つぶすならいいですよ。いかんばってんね。だから、絶対つぶさんならつぶさん、それはきっちりしたメッセージを出さなければ、この食堂のおばちゃん、いろんな人たちがどうしようかと迷っておりますので、ぜひともこの場をかりて、どう思うのか、はっきりしたメッセージをもらいたいと思いますけれども、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私も困っておりました。選挙のたびに、今度なんさあ市長さんは競輪場ばもうやめんさあばいということ食堂のお母さんたちから聞いたり、もう本当に困り果てておりました。私は一切そういうメッセージを発しておりません。

ここで私の決意を申し上げます。

武雄競輪は昭和25年4月に開設して以来、市の財政だけでなく、地元雇用であるとか、市内業者の育成など、武雄市の地域経済、そして、佐賀県の経済に多大な重要な役割を果たしていただきました。経営面では、本場開催については確かに赤字でありましたけれども、場外発売を積極的に取り組むことによって、平成17年度からは単年度黒字の運営を続けております。これは競輪にかかわる皆さんたちの本当の真摯な努力のおかげだと、この場をかりて御礼を申し上げます。

競輪の持つ役割は極めて重要であります。今後も継続して武雄競輪を運営してまいります。何とぞ御理解、御協力をお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

それでは、次の質問に移りたいと思います。

派閥解消についてです。

広辞苑によれば、「派閥」とは「特殊な利益などを中心にして結びついた仲間」と説明されているんですね。私は武雄市に来るときに、武雄市はほんに政争のまちばいと言われたけん、喜んでというわけになりませんが、大いに議論しようと思って来たんですけど、なかなかそうじゃない面がかなりあるんですね。それは、病院問題でいろいろ問題を見て、これが派閥かと、単なるいがみ合いじゃないかという感じがしますけれども、市長は、もしこれが派閥とすれば、市長は派閥解消をうたっておられましたからね、どのような方法が一番いい方法だと思われるか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

派閥解消に幾つかあると思いますけど、一番果たす役割は、議員の皆様方の役割だと思っております。確かに、右、左、議論はあろうかと思えます。市民病院でつくづく思いましたのは、政策論争あっていいと思えます。しかし、一たん決まったものについて、右と決まったものについて、あとこう左ということになると、私自身もどのように市政運営を進めていいのかわからなくなりますので、そういう意味での市議会の持つ役割というのは極めて私は大きいと認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、市長、市報なり、広報なり、確かに市長は「啓新通信」というですか、出されていますけれども、それじゃなくて、やっぱり公の立場ですね、もっともっと市報、広報出すべきと思うんですね。それが最良の方法と思う。事実は1つしかないんですからね。

今の議決問題で実は私はびっくりしたのは、8月11日の臨時議会、これは前代未聞じゃなかろうかと思ったんですね、私が見て。市長はどう映ったか知りませんよ。脳ドリルが壊れたから買いかえたい。ICUが少ないから出す。そしてまた、開鏡何ですか、ひざのところに入れるやつですね、ミラーがないから買いたい。そしてまた、脊髄の手術用がない、だから買いたいという案件ですよ。

それで、私はどうしても行かなければならない用事があったんですが、ここにおりました。そして、話を聞いていて、結局、そのときは反対討論も反対意見もなかったんですよ。だから、それで終わるかなと思っておったんですけども、議長が「賛成の方の起立を求めま

す」と言われたんですね。私は当然みんなが賛成するものと思ったんですよ。立たれるものと思いました。普通は反対がないと立たせないんですけどね。まあ、そこはたまには眠気覚ましをされたかわかりませんが、「起立を求めます」ということで立ちました。そしたら、立っていなかったんで、私は直ちにとめたんですよ。議長が「賛成多数」という言葉、嫌でしたからね、とめた。そして、採決のやり直ししたんですよ。こういうことがあっていいものかと思いましたがね。それはもちろん、平野議員が後で出て、反対討論絶対せんばとは限らんとよとされました。それはそうですよ。しかし、それはちゃんとわかっているときじゃないですか。それをされたんですね。10名ぐらい座っておられた。数えていません。だから、これは私は反対のための反対だと思いますけど、どう思われましたか。よければコメントをもらいます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この件についてはコメントを差し控えさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

まあ、よかじやなかですか。まあ、いいですね。だから、病院だから反対しかないんですね。まあ、いいです。

それから、これ、6月に言いましたね。吉川議員の新聞ですよ。だから、ここで私の質問の後に、ちょうど反対派から谷口議員と前田議員と大河内議員がおられましたので、あるいは市長からもよかったですよ。反問権はないですけども、ぜひこれ論議してくれと言いましたね。それは、吉川議員はこう書いておった。「市民病院清算金が1世帯当たり約7万1,000円負担は全くうそ」と書いてある。うそと書かれたんです。書かれた新聞がこれです。（資料を示す）「共同通信武雄市議会だより」として、谷口議員、富永議員、吉原議員、小柳議員、前田議員、石橋議員。だから、私の後に谷口議員も前田議員も入っているんですね。私は、うそと書かれれば何をさておいてもやりますね。何らなかったんですよ。これどう思われましたか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これもまたちょっとコメントを差し控えさせていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

吉川議員が書いていたのは、これなんですね。アップします。（パネルを示す）つまり、3月議会では清算金の12億円をどうするかという論議だった。だから、市長と副市長と事務長もやったですけども、清算金はゼロになりますと。今、清算しなければならない金は12億円ありますと。しかし、手当てをしますからゼロになりますという話をされたんですね。これを吉川議員は書いていますけれども、少しはしよりますけれども、退職金は3億3,000万円、これは退職手当に充てるといふんですね。皆さん、資料はやっていますでしょう。企業債が10億9,000万円ですね。長期借入れが4,000万円、赤字が1億7,000万円、これで12億円の清算せにゃいかんとのおあですよということですね。清算見込みを。それを手当てするといふんでしょう。

その手当て財源として土地・建物を売った3億9,000万円、交付金（民営化分）、これは民営化することによって金が来るんですね。1つのベッドで59万円、155床ですので、年間約9,000万円。それが5年間来ますので、4億5,000万円と書いてあるんですね。これを充てますよと。交付金で2億円来ますのを、これを充てますよと。未収金についても、これも必ず入りますので、これで充てますよと。1つ飛ばしましたけれども、この機器備品は簿価と書いてあるね、2億円。この機器備品ですけども、きのうも話が出てきましたが、結局、基本協定書ですね。3者ということで大分もめていましたけど、3者というのは巨樹の会と池友会と市ということでしょう。3者協定、大分きのうもめよったですよ、勘違いしてですね。だから、その中で医療機器備品類は、これは乙及び丙が、つまり池友会か巨樹の会、希望すれば、そのとき別途協議すると書いてあるでしょう。だから、2億円丸々来ないかわらんけれども、ゼロですよと言われたんですね、そのとき。

ちょっと前で時間食いましたので、少しここは飛ばしますけど。あと30分でしょう。

そういう話で、医療機器については簿価であるけれども、全体的に十二分、12億円ありますから、ゼロになりますよと言われたんですね。これ先ほど共同発行された中の一人ですよ、ある一人。名前は名誉のため書きませんでしたけどね。ある一人が、市長が——いや、そのとき副市長だった。副市長は、清算金はゼロになりますと言われた言葉の後に、これは3月定例議会の一般質問議事録ですよ。25日の新聞だったわけですけども、「清算金が12億円」ということで大きく新聞に見出しが出ていたわけです。「清算金が12億円」と書いてあったと。だから、質問されたんですね。私も数人から電話がいつてきたわけですけども、これを、この清算金12億円ということね、これを非常に市民が心配しているわけです。病院を売却して借金まで残るのかという感覚を持っている方がほかにいらっしやいますでしょうね。自分はこの答弁でわかったはずですから。いらっしやいます。そこら辺について、ゼロになりますよということですね。そこらについては、まず市報なり、ちゃんとした広報でぜひ市民に納得いくような説明をお願いいたしまして、一般質問を終わりますと、こう結んだ。

しかし、これは実は吉川議員が次の新聞を21年8月に出されたですね。これ吉川議員の新聞ですよ。（資料を示す）大分銭ばかけちゃあごたあばってん。この裏に今の病院問題が書いてあるんですよ。それで探しました。やっと探した1枚を孫がくしゃくしゃしましたので、アイロンで伸ばしてきたとですよ。ここに、合同通信として出してあるんですね。これにも病院問題が書いてあるんですよ。この病院問題、アップしましたけれども、こうですよ。——すみません。「合同通信」です。皆さんの資料、「共同」じゃない、「合同通信」ですね。これは谷口議員、富永議員、吉原議員、前田議員、小柳議員、これを出されているんですね。ただ、病院問題については、今回確かめていませんけど、小柳議員と石橋議員は書いておられないですね。あと何方かあります。これ証拠を持っていますけどね。

これに疑問点が4つぐらいあります。まず3つに絞りました。「どうなっているの？移譲先の変更？追加？」、これ巨樹の会のことですよ。そして、「池友会による食い逃げされないよう、市の十分な注意が必要」、ここまでよかですね。「が早くも！！」、感嘆符ですよ。始まったという言葉ですよ。それから、「社会医療法人を目指す池友会は、武雄市民病院を経営するのは障害になる」、こう市長が言ったというんですよ。このことについて、こう言ったんですか。答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは私の公的な答弁ですので、きちんと答えさせていただきます。言っておりません。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

もちろん議事録を見ればわかることですからね、私に取り立てることないかしれませんけれども、こう言われているんですね。「武雄市民病院は社会医療法人になるにはまだ基準が下です」、こう言われたんでしょう。実績のない市民病院が社会医療法人と一緒にあざ、だめですよということね。池友会がとられない。これ議事録ですよ。社会医療法人というのは2県にまたがる場合は、両方ともとらなければならないんですね。いずれか一方、ペアになったらだめですよ。そういうことで市長は言われたと思うんですね。しかし、経営するのに邪魔になると言っていないですね。

それで、武雄市民病院が社会医療法人になるとしても、社会医療法人の認定ということがあるですね。市長が言われたとおりですよ。（パネルを示す）それは救急医療の実績ということですよ。これは直近の3会計年度の夜間等救急自動車等搬送、つまり時間外ですよ。時間外の件数が750件以上あることと決まっているんですね。見てみますと、平成17年が351台、18年が520台、19年が522台、20年が616台、21年が279台ですよ。これ4カ月ですよ。これで

月平均約70台、これでやっと750台以上になる。これを3年続けんばです。3年続けて、4年目にさるっです。しかし、新しくなったからで、すぐしませんね。5年か10年、そういう状態があったら、それは申請するかわかりませんが、苦労して申請して、すぐペアになったら一緒ですので、それは実績を見ますね。だから、それをしなかったと思うんですね。こういうことをちゃんとと言えばよかったですけれども、そういうことなんですね。ちゃんと要件が載っております。

だから、こういうことが平気で言われるんですね。調べれば、わかることなんですよ。その場限りと言いませんけど。ちゃんと残りますからね。だから、それは私は不安をあおっているとしか思えませんけれども、食い逃げもですね。市長、もしあれば、どう思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ただ一言、甚だ残念であります。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

それから、これもある議員ですけれども、結局は、新行橋病院、あんな優良な病院がなぜ武雄市に来るかという話ね。そういう中で、ある議員がおっしゃったのは、社会医療法人がどういう性格を持つかという中で公共性が要る。それで、新行橋病院は医業収益もあり、いい病院ですね。医業収益もあり、経営的にも大変いいところだと、いい病院だと褒めておられるんですね。医業収益も上がっているというふうなことをお聞きしました。「そいよいよか病院たいの」と発言する者あり。それから、ここですよ。こういうとり方をされるんだなと思うちゃんね。その病院は逆に言えば、もうけよおけんですよ、なかなか社会医療法人になれんわけです、こうおっしゃっております。

じゃ、本当になれないかということですので、これも調べれば、ちゃんとわかることですが、社会医療法人の事業というのがあるんですね。（パネルを示す）資料をやっておりますよ。「医療診療により収入する金額が、医師、看護師などの給与、医療の提供に要する費用など」、わかりにくかばってんですね、「患者のために必要な必要経費の額に100分の150を乗じて得た額の範囲内であること」、難しいですけど、こうです。収入金が必要経費の1.5倍になったらいかんですよと、その以下であることですよと載っておる。これ社会医療法人の事業の範囲です。

調べてみました。平成20年度、新行橋病院、収入金額が64億円、収入がですね。支出が、必要経費が59億円、もうけが8億円、利益になっておろう。幾らになるかな。（「5億」と

呼ぶ者あり) 5億円か。これは8%ですね。失礼しました。5億円やっけん、8%ですね。こちらは下関リハビリセンター、これは収入金額が19.8億円、そして必要経費が17.3億円で、これは2億5,000万円ですね。これ14%になっております。1.5倍より、はるかに下じゃないですか。それを堂々とですね、だから、社会医療法人になれんと言われるんですね。これをどう思われますか。

○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これについては反省をしております。データを持ち合わせて、これをきちんと私どもが言っておれば、これちょっとどなたの議員さんか、ちょっと失念をいたしましたけれども、そういう質問はなかったというふうに思っておりますので、これ我が非を悔いております。失礼しました。

○議長(杉原豊喜君)

29番黒岩議員

○29番(黒岩幸生君)〔登壇〕

というよりも、私は絶えず、間違えば必ずこっちに刑法が待っていますからね、いろんなものがですね。だから、言うときはデータに基づいて言いますよ。だから、だれが来ても怖くない。

次は、だから、そういうことを含めて、結局は巨樹の会、それから池友会、そしてまた福岡学院から武雄市に申し入れがあったんです。飛ばしますけれども、池友会は、平成20年度から始まりました社会医療法人を目指しますということですね。ここは、平成16年度から始まった新臨床研修医制度にもちゃんと手を挙げておりますね、病院は。今度は平成20年、去年でしょう。社会医療法人になろうで一生懸命ですよ。しかし、社会医療法人になれば、無税になるとですね。だから、武雄市のまちおこしという面から考えたら不利益になるし、道もいいし、うち持ちの武雄の病院を一緒にすれば、さっきの状態です。救急搬送が少ないから社会医療法人もらえない。そういうことで、両方ともいいじゃないですかという申し入れが来ておるですね。この申し入れを、「武雄市を明るくする市民の会ニュース」とありますね。これに申入書を書いておられます。さっきの申し入れですね。ちゃんと入れてもらっています。

それで、大分問題ですけどね。「6月議会で移転先の変更を強行か」と書いてある。強行採決するのはだれですか。できるのは、ただ一人ですよ。我々は強行採決できないですから、議長ですよ。せんですけどね。ただ、「6月議会で移譲先の変更を強行か」か。強行で、強行採決することですからね。

そして、これの問題点は、ここに書いていますけれども、このところに書いてある。こ

こです。アップしました。(パネルを示す)武雄市を明るく市民の会、代表者は池田大生さんです。帰られたそうですよ。武雄町富岡7673、ここは宮崎さんのおうちです。共産党の宮崎さんところですよ。「社団法人巨樹の会とはどういう組織と内容なのか」と書いて、「社団法人巨樹の会という組織は、下関リハビリテーション、新行橋病院、八千代リハビリテーションなど、リハビリを中心に行っているグループのようです。市民の求めている病院とは違う病院になるかもわかりません」、ちゃんと書いてありますね。「市民の命と健康を守る病院とは大きな違いがあるようです」と書いてありますけどね、「ようす」とかね、こういうのはやっぱり問題だと思うんですね。

先ほど言いましたように、新行橋病院が64億円でしょう。下関は17億円やったですかね。ちょっと忘れましたが、やっぱり新行橋病院があそこでメインですよ。そのメインが武雄にやってくるというんでしょう。これも問題あると思いますけれども、答弁を求めます。

○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

代表者の池田大生さんという方が出されて、これはもう文書に載っておりますので、武雄町富岡7673番というところが出されたということで、これはもう公の文書だというふうに認識をいたします。その文書でこういったことが書かれること自体、非常に問題であると思っております。しかも、その配布先が各医療機関であったということについては、ダブルで問題であったというふうに認識をしております。

もうこの辺でコメントを差し控えさせていただきます。

○議長(杉原豊喜君)

29番黒岩議員

○29番(黒岩幸生君)〔登壇〕

13分。幾ら。

○議長(杉原豊喜君)

13分半。

○29番(黒岩幸生君)(続)

はい、わかりました。

先ほど出しました合同通信の中に、「どうなっているの?移譲先の変更?」及び「追加?」です。これは私は、このことに対しては市長とは大きな違いがあるんですよ。議案として追加を出されましたね。もちろん認めたですよ。賛成しました。しかし、私に言えば、何も追加しなくてよかったと思います。池友会グループで買うんですから、医療法人武雄市民病院を立ち上げりゃよかわけでしょう。武雄市民病院を立ち上げればいいわけですよ、武雄市民病院だけで。しかし、力はないですから、法人をつかって、そこに土地は池友会が

買って、武雄市民病院に貸す。建物も池友会がつくって貸せば、一つの医療法人武雄市民病院ができるんです。これは池友会のグループで抱えますので、移譲に何ら問題はないんですよ。だから、金がないから、池友会から持ってくるし、最初動けないから、下関をつけたり、池友会をつけたりして、本部を武雄に持ってくるんでしょう。これはやっぱり加勢しておると思うんですよ。武雄がよくなるように、まちおこしの一環を担うということなんですよ。だから、わざわざ追加して議決したんですから言いませんけれども、そうしなくてもよかったです。そうすれば、こう書かれんで済んだんですよ。一生懸命するがゆえに、いつもねらっておけば足がすくえますということなんですね。これは大変だと思うんですね。しかし、まあ、それはいいです、この分は。先ほど忘れておりましたので。

私はずっと見てきて、この市民病院、いろいろあるんですね。8月11日の話もしました。ICUで本当に私の友人の子ども、ここで討論で言いましたね。ICUがあれば、ああいうことはなかったんですよ。一つ間違えば死ぬかわからない。私はそれまで知らなかったんですよ。熊本大学附属病院にうちの息子がいるもんですから、その隣で全身麻酔の話がされた。そのとき初めて知ったんですね。手術はほとんど全身麻酔でいくんですよ。全身麻酔をすれば呼吸がとまると知らなかったんですよ。筋肉が緩むのを打つらしいですね。それをするぎ死ぬろうもんと言ったばってん、そがん強うは打たんと。ただ、呼吸はとめるし、筋肉の緊張を外さにゃいかん。そしたら、人工呼吸器を入れるというんですね。あのときは3つの症例があった。だから、私の友達の息子が少し早く手術室から出たんです。今、手術室でどういうことをするかといいますと、人工呼吸器がありますね。麻酔がちゃんと覚めるまで外さんですね。外したらとまりますから。そういう状態で連れてきてあったんですね。大部屋です。私、もちろん知りません。部屋のだれも知りません。赤いランプがプッププッと鳴ったんです。びっくりしました。どがんしてよかか、わからん。うろうろしたぎですね、ほかに入っておる人が、早う医者ば呼ばんね、看護師さんばと走っていったですよ。そしたら、何とかさん、何とかさんとしよったら、また消えたんですね。私、何やったろうかねと、こうしていたら、無呼吸感知装置ですか、呼吸せんぎ鳴るとばつけてありました。その鳴らんやったぎ、だれも気づかん。呼吸がとまるんですね。呼吸がとまれば低酸素血症を起こすでしょう。そういう危険な状態。本来であればICUを入れればいい。次の手術が待っていれば。緊急手術のため出たんですよ。だから、そういう大事なICUであるから、私はぜひここで議論したかった。当初言いましたようにですね。しかし、議論のないままの状態ですね。後でされたですよ。器械の話をしていないから。器械の話、先ほど協定書に書いてあるように、今後の話なんですよ。

だから、私、ちょっと当初に言いましたけど、市長はきのう、質問の通告範囲じゃないということ言われなかった。私は本当のことを言いまして、一般質問はどこでもいいと思うんですよ。すべていいと思っています。すべて私たちの自由だと思っています。しかし、通

告をしておかなければ、例えば、正確な数字が出なかったり、いろんなことがなかったりするから、よかったら通告してくださいというものだと思うんですね。なぜか。何でも言いたい放題言っていていいわけですよ。しかし、言えば必ず、一人じゃないですからね、相手があることです。それは間違えば、次の資料ですけど、業務妨害罪及び信用毀損罪に値する。これは事実を反し、風聞や憶測で相手をおとしめる行為をしたり、真実をねじ曲げ虚偽の風説を流布するなどして個人や会社の信用を失墜させるなどの行為は、刑法上の業務妨害罪並びに信用毀損罪に該当する。これがちゃんとあるわけですね。言いたい放題はされないということ。

だから、ここまでいけば泥沼になりますからね、事前に注意しているつもりですけどね、なかなかここでは守らない、これがあるということですね。このことについて市長、もしコメントがあれば、ないですかね、お伺いしたいと思いますけど。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この件に関して、私の発言は非常に重いものになりますので、あえてコメントを差し控えさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今まで武雄市議会に来まして3年半ですか、当初言ったとおりですね。政争のまちだと、いい意味でとっていましたがね、大いに喜びいさんで来ました。しかし、中身はかなり違うところがあるんですね。るる今質問したとおりなんですよ。

時間がありませんが、これだけどうしても言いたいのは、この前話しましたね。6月議会では、私は議員案件じゃないかと執行部に聞いた。とめましたね。だから、執行部が、いや、それは議員案件じゃありませんと言うたら、何で北方と武雄はこう違うのかの質問なんです。3月も言いました。6月は証拠を持ってきました。それが曲がっていったんですよ。

懲罰動議も一緒ですよ。私は宮本議員に懲罰動議出したんですよ。これは何で出したか。「宮本栄八通信」ですか、私はもともとそうっぱちと思うから何もないですけども、こう書いてあったんですよ。あれは、懲罰は3日間だと。3日間だから、1週間ぐらい前のことだからいいと言われた。つまり、「朝ズバッ！」で宮本議員が病院問題で出て、当初はみんな、かっかしていたか知りませんが、今は全部冷静だと思うんですよ。出来レースについては納得できないと言われた。だから、私はここで、出来レースについてはと規定してしまえば、さっきの信用失墜じゃないですけども、問題がありますよと。だから、そのことは今後考えてほしいと私は言った。そしたら、言葉足らずかなんか知りませんが、言われ

たですね。

私が言いたかったのは、そういう態度をやめてくれと言ったんですよ、ここで。ここで言った。そしたら、そういうふうにとられたから、じゃあ直す気がないから、そう不安をかき立てるようなことであれば、この人は議員の品位に欠けるということで私は懲罰動議を出したんですよ。これが事実ですよ。議事録にあります。それを、懲罰を言うたのは3日前ならいいんだと。前のことをさかのぼっての懲罰は何事だと言うたと言うんですよ。私が謝っていないから文句言うたと言っているんですよ。私は、人に謝ってもらおうと思ったことは一回もない。謝るぐらいなら初めから言ってほしくないからですよ。現実が生じた場合は幾ら謝っても一緒ですよ、私には。私は、そんな態度で六十数年生きてきました。議会もその延長だと私は思うんですね。そういう流れをこういう声にかえるんじゃないかと、ぜひとも、きのうおとといオバマも言いよったですね。オバマさんも、いがみ合い、そういうことをやめよう、こういうことに対してはどこかで区切りをつけようと。そして、みんなのため、私も一緒ですよ。市民のため、市長が言われるように、市民生活第一ですね。ぜひとも、こういうふうに行くように市長はしてもらいたいですね。

そのためには、やはり広報の活用ですよ。それは「啓新通信」でやられるのも結構ですけどね、重みがあるのは、やっぱり失礼ですけど、広報ですよ。だから、議会にあってることを、どういう形でできるかわかりませんが、つぶさに言って、そして、ちゃんとしたことをしなければ、このままいけば訴訟問題、泥沼に入ると思いますけれども、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘は重く受けとめたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

私ばかり時間をとっているようでございますので。

あと最後1つですね。夜間小児救急について、市長、ぜひこのことを考えていただきたいと思うのは、やっぱり子育てをどうしてくるかというのが、一番最初、私は言ったですね。自民党政府は、なかなかそこに入ってこなかったという話をしましたね。それで、やっぱり子どもを持つ親ですね、その人たちが一番今思っているのは、うちの子も一緒ですけども、うちの孫も一緒ですけども、ここで紹介したですよ。九死に一生を得た。きょうも笑って手を振ってくれました。お母さんたちは子どもが泣いたときに、若いお母さんですね、年寄りがない、特に核家族の場合は、話がでけん子どもが泣いたとき、子どもより自分が泣

きたいと言われるんですよ。だから、そういう子どもを診てくれるという病院は、物すごく少ないと思うんですね。しかし、案外、子どもというのは夜とか休みの日、今度うちも盆休みに大変なことになったんですけどね。そういうときに、特に夜間ですね。昼間は今、大変いいお医者さんがいっぱいおられますのでね。夜間は今、嬉野医療センターに小児救急ありますよということかも知れませんが、もう少しネットワークをつくって、行きやすいように、ぜひともそういう考えができないのか。先ほども言いましたように、自分の子どもが泣くときには、自分が泣きたくなるというんですね。そういうことで、ぜひともそのことをお願いしたいと思います。

母親の願いというのは、きのうは平野議員やったですかね、出たんですけども、例えば、さっきの医療費の償還払い、窓口ですね。だから、ぜひとも視線を下げて、母親になってと言いませんけれども、市長にちょっと言いにくいかことかわからんですけどね、本当、子どもが泣くときには、自分が泣きたいぐらいですよ。そういうときにお医者さんがいてくれれば、夜中にいてくれれば、診てくれればほっとするんですね。そうすることが、不幸な結果、子どもを殺したり、いろんなことがありますからね。そういう社会政情ですので、ぜひともうちに来なさいと、夜間はこうしましょうということを、新しく病院も出発していくわけですから、今度また3者ですか、地元のお医者さんと、そして一体となって、ぜひとも、このことを確立していただきたいと思っておりますけれども、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も、市内でも夜間の小児科の診療が受けられる環境が整うことが必要であるというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。市民生活第一でございます。どうもありがとうございました。

以上で終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で29番黒岩議員の質問を終了させていただきます。